

4. 防災について

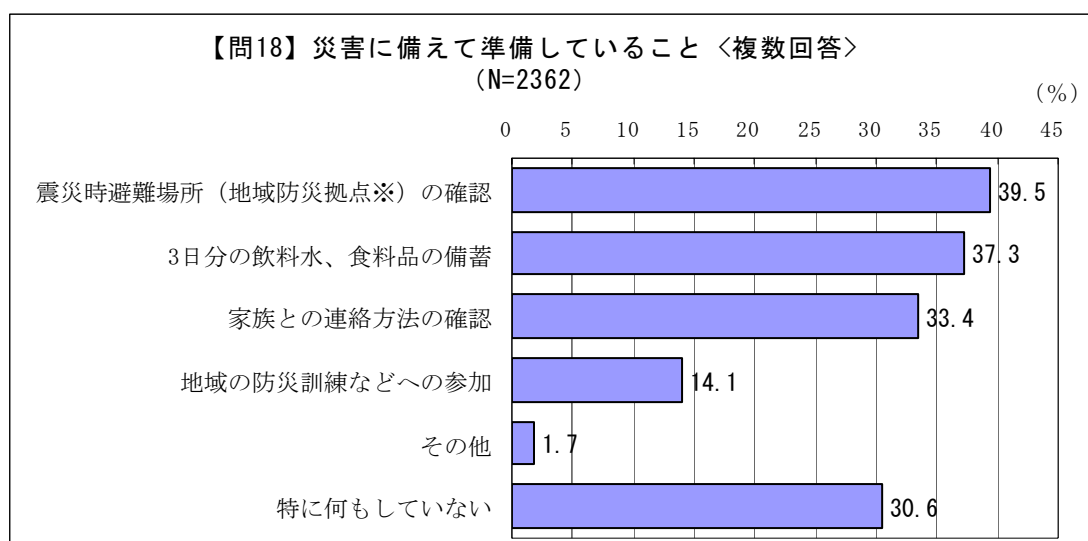
(1) 災害への備えは「避難場所の確認」「水・食料品備蓄」「連絡方法の確認」

問18では、「災害に備えてどのような準備をして」いるかについて、選択肢を5用意して複数回答をもとめた。

多い順に「震災時避難場所の確認」が39.5%、「3日分の飲料水、食料品の備蓄」が37.3%、「家族との連絡方法の確認」が33.4%と横並びの状況であった。また「特に何もしていない」が30.6%であり、家庭での災害時への備えが必ずしも十分ではない状況がうかがわれた。

問18 あなたは、災害に備えてどのようなことを準備していますか。(〇はいくつでも)

【回答数の多い順に並び替えている】	回答数	率
・ 震災時避難場所(地域防災拠点)の確認	932	39.5
・ 3日分の飲料水、食料品の備蓄	880	37.3
・ 家族との連絡方法の確認	790	33.4
・ 特に何もしていない	722	30.6
・ 地域の防災訓練などへの参加	332	14.1
・ その他	41	1.7
無回答	114	4.8

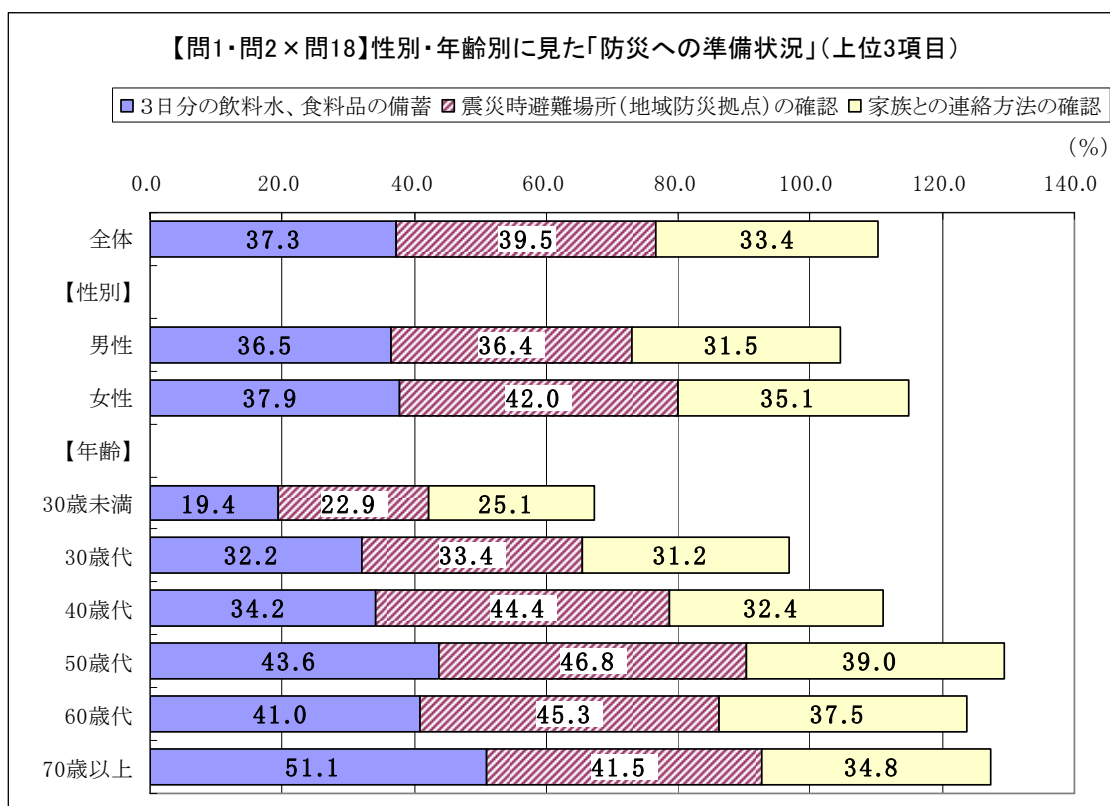


(2) 加齢にしたがって災害への備えが充実する傾向が

問18の「災害に備えて準備していること」について、回答の多かった上位3項目について、回答者の属性別で見た。

性別で見ると、いずれの項目も女性が男性を上回っていた。

年齢別で見ると、「30歳未満」がいずれの項目も全体よりかなり低く、「30歳代」以降は、「50歳代」をピークに年齢が上がるにしたがって準備している割合が高くなる傾向であった。特に「70歳以上」では、「3日分の水・食料の備蓄」が51.1%と過半数を超え、防災意識の高さがうかがわれた。



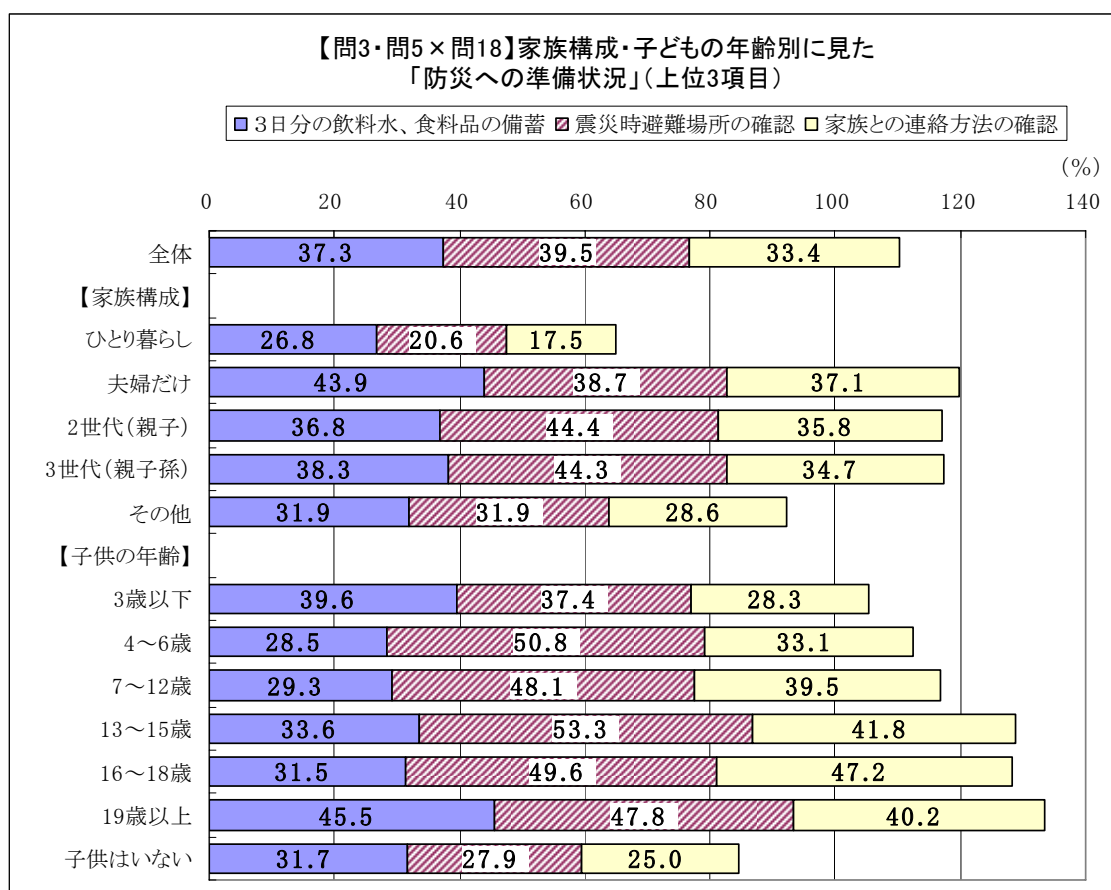
(3) 「夫婦だけ」「子供のいる世帯」で災害への備えが高まる

家族構成別でみると、「ひとり暮らし」は、3項目のいずれも全体よりもかなり低かった。「夫婦だけ」、「2世代」、「3世代」については、3項目を合わせた回答が、全体よりも約7～10ポイント高かった。

子どもの年齢別でみると、3項目を合わせた回答が、「3歳以下」から「19歳以上」と年齢が上がるにしたがって高くなる傾向にあった。

特に、「3日分の飲料水・食料品の備蓄」では、「19歳以上」が最も高く、「震災時避難場所の確認」では、「13～15歳」が最も高く、「家族との連絡方法の確認」では、「16～18歳」が最も高かった。

「子どもはいない」世帯は、いずれの項目も全体よりも低くかった。



(4) 避難場所についての心配は「トイレ」「食料」「家族との連絡」

問19では、「震災時の避難場所について心配なこと」は何かを、選択肢を6用意して複数回答を求めた。多い順に「トイレの確保」、「食料の確保」、「家族への連絡手段の確保」が上位3項目で、それぞれ78.7%、76.0%、67.3%で、他の項目よりかなり高かった。そのほかは、一けた台であった。

回答の多かった上位3項目について、回答者の属性別で見た。性別で見ると、3項目の合計について女性が全体よりも約8ポイント高く、男性が約9ポイント低かった。年齢別では、「30歳代」、「40歳代」がいずれの項目も全体よりも高く、「40歳代」をピークに下がり「70歳以上」ではいずれの項目も全体よりも低かった。

問19 あなたは、震災時の避難場所について、どのようなことが心配ですか。(〇はいくつでも)

【回答数の多い順に並び替えている】

	回答数	率
・ トイレの確保	1,858	78.7
・ 食料の確保	1,796	76.0
・ 家族などへの連絡手段の確保	1,589	67.3
・ 近隣の中学校や高校が避難場所(地域防災拠点)に指定されないため、遠くまで避難しなければならない	177	7.5
・ 避難経路の途中に大きな道路や河川があり、避難が難しい	126	5.3
・ 特に心配なことはない	55	2.3
・ その他	122	5.2
無回答	83	3.5

